

# ティーチング・ポートフォリオ

健康科学大学看護学部看護学科

講師 堀口 まり子

## 1. 教育の責任

臨床で求められている看護職の育成として、文部科学省から2004年に看護学生の看護実践能力の充実が求められている。看護実践能力の構成であるⅠ群「ヒューマンケアの基本に関する実践能力」、Ⅱ群「看護の計画的な展開能力」、Ⅲ群「特定の健康問題を持つ人への実践能力」、Ⅳ群「ケア環境とチーム体制整備能力」、Ⅴ群「実践の中で研鑽する基本能力」がカリキュラム構築として必要な要素である。しかし当看護学部ではまだ作成に至っていないため、学生の能力開発に向けて卒業時の到達度のカリキュラムや評価方法を具体的にしていく必要がある。

私は健康科学大学看護学部看護学科の教員として、成人看護援助論、成人領域の臨地実習を中心に担当している。過去3年間の担当と授業科目は以下の通りである。各授業のシラバスは健康科学大学のホームページ上で公開されている。

主要な科目は、成人看護援助論Ⅰ（急性期）、成人看護炎所論Ⅲ（看護過程）、臨地実習、などの領域における専門科目になっている。また感染看護、看護の統合と実践領域の看護マネジメント、災害看護に関する科目を担当している。

### 2023年度

科目名	時期	
成人看護援助論Ⅰ（急性期）	2年前期	必修
成人看護援助論Ⅲ	3年前期	必修
成人看護学実習ⅠⅡ	3年後期	必修
感染看護論	4年前期	選択
看護マネジメント論	4年前期	選択
災害看護論	4年前期	必修
成人・老年看護援助論Ⅰ	2年後期	必修

本学の授業のほかに、以下のような活動をしている。

- 1) 山梨県看護協会 研修「感染予防【応用編】」講師
- 2) 山梨県医療勤務環境改善支援センター看護管理アドバイザー派遣事業への参加
- 3) 病院施設からの管理・教育体制の支援
- 4) 日本看護学会抄録選考委員
- 5) 健康科学看護学部  
教務委員会（委員）、学生・就職・卒後教育委員会（委員）  
感染災害プロジェクト（メンバー）
- 6) 学生サークル顧問 DNST
- 7) カリキュラム開発 看護技術到達演習

1-3) の活動においては、山梨県の病院等施設の感染対策を担う人材育成や、看護部門の管理や教育体制の整備と人材育成に向けた研修企画等への支援を実践している。4) は看護学会の抄録の査読を通して日本看護学会への参画をおこなっていると同時に感染看護や看護管理の講義においても有益な情報を提供できる。7) は現在作成中である。

## 2. 教育の理念

本学は、今後ますます高度化、多様化する医療・保健・福祉の分野で、国民のニーズに的確に対応しうる人材の育成を目的としている。「豊かな人間力」「専門的な知識・技術力」「開かれた共創力」の三つの力を兼ね備えた人材育成を目指している。

学生の育成としては、専門的な知識・技術の習得を、自ら学ぶ姿勢を持ちながら、受動的でなく能動的な姿勢を持ち、コミュニケーション力や内省する力、他者との協調性を伸ばしていける主体的な学生の育成を目指している。

## 3. 教育の方法

教育では、学生が主体的に学ぶことができるよう、個々の意見を述べる機会を設け、アクティブラーニング手法を用いることが可能である。

科目を担当している 2 年次 3 年次 4 年次に連動した教育展開をしていく方向である。

### 1) 授業の展開

#### ・反転授業（事前学習課題）

講義や演習時に事前課題を提示し教員が評価している。評価が遅くなる傾向があるので学生主導での展開の導入を検討したいと考えている。

#### ・問題解決型学習

グループワークを通してチームでの課題達成にむけてのディスカッションを多くと入れたいと考えている。感染看護論、看護マネジメント論、災害看護論で、今後に向けてであるが、グループワーク（リポート・討議会・ワールドカフェなど）を、段階的・反復的に進めていく方法を検討していきたいと考えている。

### 2) シミュレーション演習

3 年次の臨地実習では、実習スケジュールに合わせてロールプレイを導入している。ロールプレイは、学生が患者・看護学生を演じる。少人数でグループを作り（実習グループ）学生はシナリオを準備し実施する。他の学生は観察者となり、ロールプレイ終了後に全員で建設的な意見交換をする。学内において学生が看護者、患者の役割を演じることで、自分の傾向を知ることができ、他の学生の援助をみることができ、患者の体験を自分のこととして学ぶことで相手のことを考えた援助につながることを期待している。

### 3) 映像資料の活用

成人看護援助論Ⅰ（周術期）では手術前・手術後の治療に伴う看護援助の映像を使用している。感染看護論では感染対策チームのラウンドの紹介、各種アウトブレイクの実際など映像

で紹介している。災害看護論では、災害発生時の初期対応やトリアージの実際を映像で説明している。臨床現場で起きていること、行っている医療や多職種連携など机上学習で理解でき、臨地実習や地域での体験に更に学びを深めることを目的としている。

#### 4. 教育の成果・評価

授業ごとのリアクションペーパーの結果や学生からの授業評価アンケートを活用して授業内容の振り返りをおこない改善につなげている。リアクションペーパーでは、学生からの質問や疑問点を次回の授業で回答をおこなっている。評価は次年度のシラバスや授業内容に活かしている。

#### 5. 今後の目標

評価を具体的にしていく。学生が主体的に学習できたか、自ら学ぶ姿勢を持ちながら、受動的でなく能動的な姿勢を持ち、コミュニケーション力や内省する力、他者との協調性を伸ばしていったか、という視点に沿って評価ができるようにする。

学生一人一人の課題が明らかとなりの能力獲得となるよう、看護実践能力開発を進めていく。